

# 野々市市

## 栗田遺跡 あわだいせき

栗田遺跡は野々市市栗田を中心に広がる、奈良時代

から江戸時代にかけての集落跡です。中世の集落

は鎌倉時代（約800年前）から営まれますが、集落

が最盛期を迎えるのは室町時代後半（約600～500年

前）で、集落内には掘立柱建物が建ち、集落の外れ

には墓地が造られていました。

展示品は土坑墓とよばれる墓穴から出土した中国

産の青磁碗と染付碗で、

副葬品である染付碗の

年代から墓が室町時代

後半に造られたことが

わかります。



青磁碗と染付碗の出土状況

## 三日市A遺跡 みっかいちAいせき

三日市A遺跡は弥生時代及び、奈良時代から室町時代に

かけての集落跡です。室町時代（約700～600年前）の

集落内には宅地を区画する溝が掘られており、宅地内には

掘立柱建物が建ち並び、集落外れには墓地が造られてい  
ました。

展示品は室町時代後半の墓地に造られた土坑墓の副葬

品です。凝灰岩製の行火は開口部を上、瀬戸焼の灰釉

碗は伏せた状態で、重なって出土しました。

墓からは焼骨や炭化物な

どもみつかっており、墓

地に造られた墓の大部分

は火葬墓であったと考え

られます。



左：石製行火 右：瀬戸焼灰釉碗